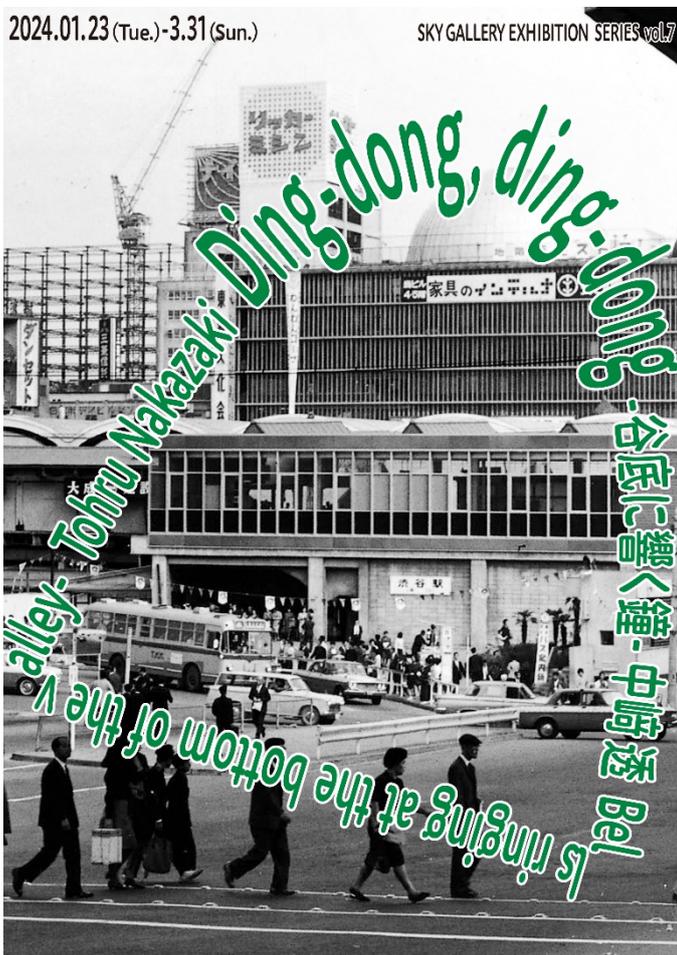


2023年11月30日(木)
渋谷スクランブルスクエア株式会社

SKY GALLERY EXHIBITION SERIES vol.7 美術家・中崎透によるエキシビション
「Ding-dong, ding-dong ～Bells ringing at the bottom of the valley～」
2024年1月23日(火)から3月31日(日)まで開催
「アーティストトーク 中崎透×長嶋りかこ」も1月27日(土)に一夜限定開催

「渋谷スクランブルスクエア」の14階・45階・46階・屋上に位置する展望施設「SHIBUYA SKY」(以下、本施設)は、「SKY GALLERY EXHIBITION SERIES」と題して、本格的な企画展を定期的で開催しております。

「SKY GALLERY EXHIBITION SERIES」は、本施設のご来場者に、渋谷最高峰の景色を眺めるだけにとどまらず、まだ見ぬ世界への興味を抱かせ、想像力を育てる体験を提供することを目的に開催。「視点を広げる」を共通テーマに、アーティストが本施設を体験したインスピレーションから制作された作品を展開しております。7回目となる今回は、中崎透による企画展「Ding-dong, ding-dong ～Bells ringing at the bottom of the valley～」(以下、本展)を開催することが決定しました。開催期間は、2024年1月23日(火)から3月31日(日)までとなります。



▲キービジュアル

Ding-dong, ding-dong ～Bells ringing at the bottom of the valley～

ベルボトムと呼ばれるズボンの型をご存知だろうか？
妙な縁から、渋谷で90年代からベルボトムの専門店をやっている
店主と出会った。
かつてのベトナム戦争の時代に、兵士が戦争への抵抗として、
ブーツからズボンの裾を出したスタイルが、
「鐘/ベル」の形をしていたことが発祥だという説があるらしい。
それはアメリカにおいて「自由の鐘/Liberty bell」を連想させ、
自由や平和、愛の象徴としてのファッションとして広まったと
言われている。

ベルボトム専門店の店主、渋谷の都市開発に従事した男性、
現在、渋谷の街を闊歩しつつテクノ音楽をこよなく愛する女性、
といった三人の言葉をモチーフの一つの物語を紡いだ。
東京を、渋谷を一望するようなこの場所から、
足元から力強く鳴り続ける「谷底の鐘の音」に耳を澄ましてみる。

<本件に関する報道関係者さまからのお問合せ先>
渋谷スクランブルスクエア PR 事務局 (株式会社サニーサイドアップ内)
担当: 岡山 (070-3315-4410)、蟹江 (080-3438-6047)、矢野 (080-7934-3745)
E-mail: scramble_square_pr@ssu.co.jp

展示概要

茨城県水戸市を拠点とする美術家中崎透は、「言葉」と「イメージ」の「ズレ」をテーマにしたユニークな看板作品をはじめ、多くの人を巻き込みながらプロセス自体を作品化したプロジェクト型の作品など、活動が多岐にわたることで知られています。中崎はここ数年ほど、その土地／地域や建物に所縁ある人々取材したインタビューを基点にし、紡いだ言葉とともに空間を構成したツアー型のインスタレーション作品のシリーズを全国各地で展開しています。

今回の展示において中崎は、渋谷という街に深く関わりながら独自の人生を歩む、年齢や性別、職業の全く異なる三人のインタビューを実施。決して交わり合う事の無かった三つの人生が、中崎の新作を中心とした作品群と共に紡がれていきます。鑑賞者はこの舞台に散りばめられた断片を通して、ここ SHIBUYA SKY の上空から見下ろす街のイメージとのズレ、自らの今や人生との差異に触れながら、社会と個人の間にある影響の密接さを感じることでしょう。再開発が続くこの街の輪郭は常に変化していきますが、その輪郭もまた揺さぶられる体験になるかもしれません。

■企画名称：SKY GALLERY EXHIBITION SERIES vol.7 「Ding-dong, ding-dong ～Bells ringing at the bottom of the valley～」

■開催期間：2024年1月23日（火）～3月31日（日）

■開催場所：SHIBUYA SKY 46階「SKY GALLERY」

■特設サイト：https://www.shibuya-scramble-square.com/sky/exhibition_nakazaki_tohru/

※特設サイト等の告知物にて使用している渋谷のアーカイブ写真については東急(株)より提供

■参加方法：

イベント当日のSHIBUYA SKY 入場チケット、もしくは年間パスポートをお持ちの方は、どなたでもご鑑賞いただけます。入場チケットのご購入について、詳しくは下記サイトをご覧ください。

<https://www.shibuya-scramble-square.com/sky/ticket/>

※SHIBUYA SKY チケットは数に限りがございます。希望日時のチケットが完売の場合は購入いただけません

※4週間先の日付までの入場チケットをご購入いただけます。本展につきましては、12月26日（火）より順次販売開始いたします。

※入場後の滞在時間に制限を設けていませんが、退場後の再入場はできません

中崎透について

■プロフィール

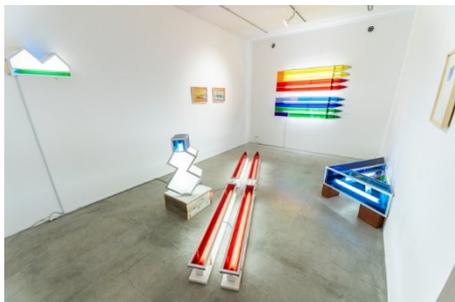
中崎透／NAKAZAKI Tohru

1976年茨城生まれ。美術家。武蔵野美術大学大学院造形研究科博士後期課程満期単位取得退学。現在、茨城県水戸市を拠点に活動。言葉やイメージといった共通認識の中に生じるズレをテーマに自然体でゆるやかな手法を使って、看板をモチーフとした作品をはじめ、パフォーマンス、映像、インスタレーションなど、形式を特定せず制作を展開している。展覧会多数。2006年末より「Nadegata Instant Party」を結成し、ユニットとしても活動。2007年末より「遊戯室（中崎透+遠藤水城）」を設立し、運営に携わる(-2021)。2011年よりプロジェクト FUKUSHIMA!に参加、主に美術部門のディレクションを担当。2022年、越後妻有大地の芸術祭参加、水戸芸術館にて個展「中崎透 フィクション・トラベラー」開催。2023年、芸術選奨新人賞受賞。

中崎透 公式サイト：<http://nakazakitohru.com/>



▲中崎透



「Poolside Snowman」2021 撮影：門間友佑／Yusuke Monma



「Peach Beach, Summer School」2019 撮影：越後谷出／Izuru Echigoya



「Sunny Day Light / ハルとテル」

六甲ミーツ・アート芸術散歩 2023 beyond

撮影：高嶋清俊

▲中崎透の過去の作品

アーティストトーク 中崎透×長嶋りかこ 開催

本展の開催を記念し、美術家中崎透氏とグラフィックデザイナーの長嶋りかこ氏によるスペシャルトークショーを開催いたします。長嶋りかこ氏は本展において、グラフィックデザインを担当。SHIBUYA SKY ブランディングディレクターの有國恵介氏をモデレーターに迎え、本展の制作背景・裏話を存分にお届けいたします。トークショー終了後は本展を3者ととも鑑賞いただけるギャラリートークも開催する他、渋谷スカイの閉館時間までご自由にお楽しみいただけます。

場所：SHIBUYA SKY 46階「SKY GALLERY」

日時：2024年1月27日（土）20時～

※トークショーは約1時間の予定です。その後46階「SKY GALLERY」に移動し、本展をご鑑賞いただけます。

チケット料金：2,800円

※12月26日（火）10:00より販売予定

※販売開始時間以降に、渋谷スカイ公式サイトイベントページ (<https://www.shibuya-scramble-square.com/sky/event/>)

よりチケット購入のリンクをご案内します。そちらよりご購入ください。

※チケット枚数には限りがあり、事前申し込みによる先着順です。



▲長嶋りかこ

■プロフィール

ビジュアルアイデンティティ (VI) デザイン、サイン計画、ブックデザインなど、視覚言語を基軸としながら活動。対象のコンセプトや思想の仲介となつて視覚情報へと翻訳し色と形にする。これまでの仕事に札幌国際芸術祭“都市と自然”/アニッシュカパーアの崩壊概論展/ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館「エレメントの軌跡」などのVI&サイン計画、ポーラ美術館の新VI計画など。



▲有國恵介

■プロフィール

プロジェクトディレクター。演出と空間を掛け合わせた長期的な場づくりをテーマに商業施設や都市空間の体験設計を手掛ける。主な仕事は東京駅100周年記念 TOKYO COLORS 総合演出、経済産業省『FIND/47』企画制作。常設インスタレーション SHIBUYA CAST の『AXYZ』の企画制作、心齋橋大丸『D-WALL』企画制作、展望施設『SHIBUYA SKY』の体験設計から開業後のブランディングディレクターとして従事。2023年12月竣工の SHIBUYA SAKURA STAGE のデジタル環境演出など。

SKY GALLERY EXHIBITION SERIES について

渋谷は文化を生み出す街であり、本施設はそんな街との循環によって、渋谷とともに成長してゆく「知的好奇心を育てる施設」を目指しています。そのためにも、本施設のキーマッセージである『展望せよ。渋谷、世界、自分、未来。』を軸に、渋谷で文化を生み出しているパートナーやアーティストとのコラボレーションを通じ、新たな気づきを誘発するカルチャーコンテンツを企画・実施しています。

なかでも46階屋内展望回廊「SKY GALLERY」にて定期的に開催する「SKY GALLERY EXHIBITION SERIES」は、「視点を広げる」を共通テーマに、アーティストが本施設を体験したインスピレーションから制作されたオリジナル作品を軸に展開する本格的なエキシビションです。

今後も本施設は、「SKY GALLERY EXHIBITION SERIES」を通じて、渋谷最高峰の景色を眺めるだけにとどまらず、まだ見ぬ世界への興味を抱かせ、想像力を育てる体験を生み出します。

■これまでの SKY GALLERY EXHIBITION SERIES

vol.1 EVEREST 都市と極地の高みへ	vol.2 FOCAL DISTANCE 焦点距離
開催期間 2020年6月1日～8月31日	開催期間 2020年11月1日～2021年1月17日
写真家石川直樹氏が自ら登り、撮影したエヴェレストの写真をSKY GALLERYの空間構成に沿って展示。当企画は、本施設の体験設計のベースとなっている通過儀礼や山登りの体験構造にフォーカスを当て、体験の類似性と異なるスケールを持った世界の可能性を“直感的”に示すことで、目に見える景色の先に世界はつながっているという事を示唆しています。	アーティストの岩崎貴宏による、観る者の視点に潜む焦点距離を変化させることに着目した変貌する都市のポートレートの作品を展示。 作家自身がSHIBUYA SKYを体験したインスピレーションから制作されたオリジナル作品を軸に展開。

vol.3 Everyone's sky 消えゆく風景への旅 by TRANSIT	vol.4 DOWN TO TOWN
開催期間 2020年6月1日～8月31日	開催期間 2022年5月20日～7月24日
<p>2020年9月にTRANSITから発行された「TRANSIT49号 美しい消えゆく世界への旅」の誌面企画から、“海（Sea）・森（Forest）・動物（Animals）・眺望（The View）”という4つのエリアに分けて再構成した写真／読み物パネルを<SKY GALLERY>回廊内の壁面4箇所にはりつけ、回遊しながら楽しめる空間展示としています。屋上から360度に広がる景色を体験した後、その先に広がる世界のさまざまな環境問題に目を向けるきっかけをつくります。</p>	<p>「DOWN TO TOWN」は、アートチーム「SIDE CORE」がキュレーションする、匿名アーティストグループ「EVERYDAY HOLIDAY SQUAD」による個展です。渋谷で一番高所に位置するSHIBUYA SKY 46階「SKY GALLERY」を展示会場とし、「望遠鏡を覗いて鑑賞すること」や「独自の視点で作られた地図を持って街を歩く」という行為を通じて、アーティストのアイデアに触れながら街を散策(down to town)し、街に対する新しい視点の獲得をうながしました。渋谷という街の中でこそ生まれる特別な体験を提供しました。</p>
	
vol.5 目 [mé]	vol.6 TOKYO GAMES
開催期間 2023年1月13日～3月24日	開催期間 2023年5月25日～7月30日
<p>都市の運動から抜け出し「ただ、眺める」。をテーマに、これまで展示空間と観客を含めた状況をつくることで空間を変容させ、現実の不確かさをひとつひとつに体験させてきた現代アートチーム「目 [mé]」の企画展を開催。作家の観点と非日常から世界を眺めることを可能にするSHIBUYA SKYの視座を重ねることで、都市は一つの大きな運動体でありながら、その運動を担う私たちはそれぞれの固有の時を歩んでいるという世界の姿をただ、眺めることを促しました。</p>	<p>写真家・松岡一哲は、身近な被写体や日常を切り取りながら、存在の固定概念や言葉の枠組から取りこぼされる世界の実存をフィルムに焼き付けてきた。本展では、SHIBUYA SKYの展望空間から望むことのできる東京の数カ所の街で撮り下ろしたポートレート32点を含む総数42点の作品を展示。展望空間では東京の遠景を、展示空間では近景を、と異なる視点・視座から見つめる体験を提供しました。</p>
	

「SHIBUYA SKY」について

■SHIBUYA SKY

本施設は、14階～45階の移行空間「SKY GATE」、日本最大級の屋上展望空間「SKY STAGE」、46階の屋内展望回廊「SKY GALLERY」の3つのゾーンで構成されております。渋谷最高峰の地上229mから広がる360度の景色を眺めるにとどまらず、一連の体験を通じて知的好奇心を刺激し、想像力を育む展望装置です。

名 称 : SHIBUYA SKY

フ ロ ア : 14階 (チケットカウンター)、45階・46階 (屋内展望施設)、屋上 (屋上展望空間)

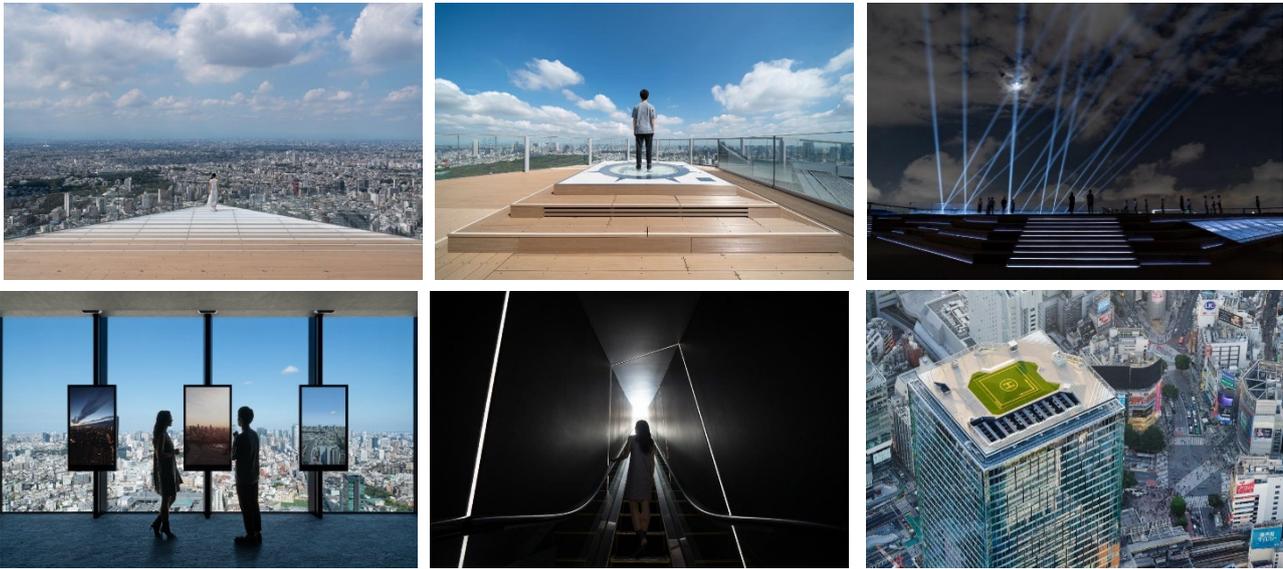
高 さ : 地上229m

営業面積 : 屋上展望空間 約2,500㎡、屋内展望施設 約3,000㎡

営業時間 : 10:00～22:30 (最終入場 21:20) ※最新の営業時間は公式WEBサイトをご確認ください

休 館 日 : 元日 (※臨時休館日あり)

公式WEBサイト : <https://www.shibuya-scramble-square.com/sky/>



<施設およびチケットに関するお問合せ先>

SHIBUYA SKYお問合せ窓口 TEL：03-4221-0229（受付時間10:00～20:00）

<渋谷スクランブルスクエア 概要>

名 称： 渋谷スクランブルスクエア／SHIBUYA SCRAMBLE SQUARE
 事業主体： 東急(株)、東日本旅客鉄道(株)、東京地下鉄(株)
 所 在： 東京都渋谷区渋谷2丁目24番12号
 用 途： 事務所、店舗、展望施設、駐車場など
 延床面積： 第Ⅰ期（東棟）約181,000㎡、第Ⅱ期（中央棟・西棟）約96,000㎡
 階 数： 第Ⅰ期（東棟）地上47階 地下7階、
 第Ⅱ期（中央棟）地上10階 地下2階、（西棟）地上13階 地下5階
 高 さ： 第Ⅰ期（東棟）229.7m、第Ⅱ期（中央棟）約61m、（西棟）約76m
 設 計 者： 渋谷駅周辺整備計画共同企業体
 ※(株)日建設計、(株)東急設計コンサルタント、(株)JR東日本建築設計、
 メトロ開発(株)
 アーキテクト： (株)日建設計、(株)隈研吾建築都市設計事務所、(有)SANAA 事務所
 運営会社： 渋谷スクランブルスクエア(株)
 ※東急(株)、東日本旅客鉄道(株)、東京地下鉄(株)の3社共同出資
 開 業： 第Ⅰ期（東棟）2019年11月1日
 第Ⅱ期（中央棟・西棟）2027年度
 U R L： <https://www.shibuya-scramble-square.com>



▲渋谷スクランブルスクエア外観

<本件に関する報道関係者さまからのお問合せ先>
 渋谷スクランブルスクエア PR 事務局（株式会社サニーサイドアップ内）
 担当： 岡山（070-3315-4410）、蟹江（080-3438-6047）、矢野（080-7934-3745）
 E-mail：scramble_square_pr@ssu.co.jp